

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月31日

【評価実施概要】

事業所番号	3471503171		
法人名	有限会社 陽気		
事業所名	グループホーム いぶき		
所在地 (電話番号)	福山市駅家町法成寺2808-1 (電話) 084-949-3230		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29		
訪問調査日	平成20年1月29日	評価確定日	平成20年2月19日

【情報提供票より】(19年12月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 9 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 13.9	

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 / 改築
建物構造	木造一部鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	有	無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(有) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 約 830 円		

(4) 利用者の概要(12月30日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	4 名
要介護5	3 名	要支援2	名
年齢	平均 歳	最低 歳	最高 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長外科胃腸科医院・浜田歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の理念は、利用者の方の地域生活の継続支援と事業所と地域との関係性強化を念頭に置き、これらを基に全職員で話し合って各ユニット毎に明確な目標を策定されている。また、事業所では全職員の職責と望まれる人間像等も明確化されており、これらのことや理念の実践状況などを合わせて職員は自己評価を行い、これを基に管理者と職員は3ヶ月毎に話しあいながら具体的なケアについての意見統一を図っている。職員は、利用者と共に暮らす同士として、不安や喜び楽しみを分かち合いながら本人の思いを共感し、理解しながら支援に努めており、共に支え支えながら信頼関係づくりが築かれているようである。なによりも、利用者の方が安心されて自然体で暮らされている場面も多く、地域密着型サービスの役割を理解しながら、支援を行っている職員の明るく自信に満ちた姿が印象的であった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では特に改善点はなかったが、その後の新たな取り組みとして今以上に職員各々が向上心を持って職場環境を整えるように努められており、結果的に勤務の継続や利用者の生活の継続性を支えることにつながっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者は、評価を円滑に、かつ実りあるものにするために積極的に取り組み、サービスの目的や意義を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議では、事業所の報告は基より参加メンバーからなるべく多くの質問や意見等を受け、一つひとつを積み上げながら質確保を図っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>平日頃から、家族等が職員に直接、意見・要望等を表せる機会と雰囲気づくりに留意しながら、出された意見などはミーティングで話し合いをし、反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一員として地元の活動は勿論のこと、多くの人々との交流に積極的に取り組みながら、また地域で必要とされる活動や役割にも担っていく努力が行われている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを基本とされた事業所の理念を基に、ホーム独自の理念(各ユニット毎)を全職員で話し合い、具体的なイメージを持ちながらつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は3ヶ月毎に、理念の実践状況について話し合い、具体的なケアについての見直しを行い意見の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者と職員は共々出来るだけ積極的に地域の行事に参加をし、また地域で必要とされる活動や役割を担っていく努力を行いながら、利用者が地域で暮らし続けるための基盤作りに取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は、サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。また、評価結果を十分踏まえて改善などに向けての検討や実践につなげている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ホームからの報告や情報交換にとどまらず、参加者との話し合いの場として、これらを通じて意見や要望等をもらい、サービスの向上に具体的に活かしている。		今以上に会議への参加者から多くの率直な意見などをいただき、改善に向けた取り組みにつなげるために、幅広い立場の人に参加していただくよう地域の資源を掘り下げられることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	母体の事業所を通じて、所轄の行政の理解と協力を得る支援などの関係づくりを図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に限らず、常日頃からきめ細かい報告がなされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの苦情への対応は、その場で終わるのではなく、その苦情などの発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みを行っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わる時は、その時期や引き継ぎの期間を十分に取るなど最善の配慮と対応をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画の中で研修を明確に位置づけ、また職員各自に応じた段階的・計画的な学びの機会を設けながら、職員の質の確保・向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での研修などを通じて、交流を強化しながらサービスの質の向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者一人ひとりが安心してサービスを利用できるよう、相談の時点から利用に至るまで、利用者の視点に立って柔軟に支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に暮らす同士として、喜怒哀楽を共にする関係づくりに留意している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃から、職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心を払い、把握しようと努めながら支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方について、本人や家族などの気づきや意見を出しあい、話し合った結果をもとに作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、設定された期間での見直しはもちろん、本人、家族の要望や変化が生じた場合には、実情に応じたケアにつながるよう介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	医療連携体制を活かして利用者にとって負担となる受 診や入院の回避、早期退院等の支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医や医療機関による 受診の支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化に伴う事業所の指針を作成し、事業所が対応し 得る最大のケアについて説明が行われている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	日々の関わり方を管理者が点検し、利用者のプライバ シーなどを損ねない対応の徹底と、また勉強会やミー ティングの際に意識向上を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は常日頃から利用者一人ひとりの状態や思いに 配慮しながら、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりから片付けに至るまで、食事一連の流れを利用者の意志や気持を大切にしながら進めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の習慣や希望に応じて、個別にあつた入浴の支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の習慣、希望、有する力を踏まえて、何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握し、支援に取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の利用者の状態や本人の習慣、有する力、希望、季節や地域のその時々に応じて、一人ひとりが外出を楽しめる支援に取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない暮らしの大切さについて全職員は認識しており、利用者一人ひとりの外出のくせや傾向をつかみながら、見守りや連携プレーで鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、参加が出来る利用者と共に避難訓練を行っている。また、地域の協力体制については、運営推進会議などを通じて協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の食事や水分の摂取量を毎日記録し、また職員が情報を共有し、個々に応じた対応を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は自らの五感を活かすとともに、利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら、利用者にとって居心地のよい場を整えている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた馴染みの物を傍に置いておくなど、本人や家族と相談しながら個別に応じた工夫と配慮がなされている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームいぶき 1階

評価年月日 2008年 1月 29日

記入年月日 2008年 1月 10日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 藤田 真理子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

目 次

<ul style="list-style-type: none"> 理念に基づく運営 1 1 理念の共有 1 2 地域との支えあい 1 3 理念を实践するための制度の理解と活用 2 4 理念を实践するための体制 2 5 人材の育成と支援 4 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 4 1 福祉から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 5 その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 6 1 一人ひとりの把握 6 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し 7 3 多機能性を活かした柔軟な支援 7 4 本人がより暮らし続けるための地域資源との協働 7 	<ul style="list-style-type: none"> 1 1 1 2 2 4 4 4 5 6 6 7 7 7 	<ul style="list-style-type: none"> その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 9 1 その人らしい暮らしの支援 9 (1) 一人ひとりの尊重 9 (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 10 (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 11 (4) 安心と安全を支える支援 12 (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 13 2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり 14 (1) 居心地のよい環境づくり 14 (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 15 サービスの成果に関する項目 16
---	--	---

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地元の利用者が少ない中でも 地域の中でより良く暮らせるよう、独自の理念を作成している		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日理念を意識し、日々のケアを行っている 三ヶ月に一度、管理者が職員と面談を行い、理念に基づき日々どう取り組んでいっているかなど話し合っている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議で町内会長、民生委員、ご家族などにお伝えする機会をもっている 独自で行っている行事には参加していただけるよう呼びかけている		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の方が通られるたびに職員から挨拶をされており、顔見知りの方も多くなってきている しかし気軽に立ち寄っていただけるまでにはなっていない		利用者と近所の方との交流が少ないので散歩など増やしていきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のイベントは年々参加を増やしている 回覧等で内容を調べ、利用者様の興味をひくようなものから参加している		イベントの内容によって参加不参加を決めているが、もっと多くの行事に参加していきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の一員としてゴミ拾いは行っているが、高齢者の暮らしに直接役に立ってまではいない		カンファレンスにて話し合いを行い、取り組んでいきたい
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に自己評価及び外部評価の意義等伝え、理解してもらっている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議であがった意見や話し合いの内容等は職員に伝え、話し合いを行い、次に活かしている		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の開催する介護保険事業所説明会など積極的に参加し、サービス向上に活かしている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	事業所の勉強会等で学ぶ機会をもうけている 未だ必要性はないが今後活用していきたい		一年に一度は学んでいるが、まだ完全な理解まではできていないので深く勉強していきたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会などで学ぶ機会をもうけ、各職員に意識づけている 常に注意し防止に努めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	細かく説明を行い、疑問があればその都度お聞きし、理解・納得していただけるよう努めている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情受付を利用したり、面会時、運営推進会議などでご意見を頂き、次に活かしている		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時や電話連絡、通信にて常時報告している ただ職員の異動まではお伝えしていない		ご家族より異動を極力少なくして欲しいと意見を頂戴した やむなく異動があった場合でもお伝えしていきたい
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・苦情などあった場合は即全職員に伝え、気をつけている		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個人面談、カンファレンスで意見を聞く機会をもっており、それを反映させている		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者等の状況の変化、要望に対応できるよう職員には理解の上で協力を求めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>やむなく異動があった場合は引継ぎを細かく行うなどし、利用者・ご家族へのダメージを極力少なくできるよう配慮している</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>事業所全体で新人職員に対する研修を実施したり、カンファレンスで現任研修を行ったり、外部研修に参加したりなど、働きながら育成していけるよう努めている</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域の研修等に参加しながら横のつながりを大切にしている</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>個人面談時に最近の状況を聞いたり、日々のちょっとした会話を増やし、ストレスがあれば早めに気づき、少しでも軽減できるよう努めている</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>職員とのコミュニケーションを日々大事にし、個々にあう方法で向上心をもって働けるよう努めている</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>利用者に心から安心していただけるよう、本人の思いをくみとるよう努めている</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用者とともにご家族にも心から安心していただけるよう、気軽に何でも言える雰囲気作りを心掛けている		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアマネージャーと連携を図りそのとき必要なサービスを見極めていけるよう努めている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬように馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	慎重におこなっている ご家族様には状態をよくみていただき無理なサービスになっていないか相談しながら進めている		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側、される側に分かれず、一緒に生活する仲間として捉え、楽しみ、悲しみなど共に感じあい支えあう関係を築いている		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の悩み、思いをしっかりと聞き、受け入れ、一緒に本人と支えあえる関係作りに努めている		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	アセスメントをすることにより把握させていただき、利用後の変化等も話しながら支援している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの場所、もの、友人関係等を大切にし、関係が途切れないよう支援している 外出時、なじみの場所に行くこともある</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>利用者同士がうまく関わりあえないときは、職員が間に入り、孤立せずお互いが支えあえる関係作りに努めている</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>退居後、入院されている場合は面会に行ったり、電話連絡をするなど関係が途切れないようにしている</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>個々の思いや暮らし方の希望など、ご家族や本人から聞き取り把握している</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>アセスメントの段階で確認を行い、その後もご家族、本人よりお聞きし把握に努めている</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>個々の状態を総合的に見て現状を把握している</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、ご家族からお聞きし介護計画を立てている		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に見直しは行っている 期間内に見直しが必要になった場合はその都度行なっている		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	細かく記録に残している 全職員が内容を把握しており、実際のケアや介護計画の見直しにも活かしている		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者様、ご家族のニーズに応じていけるよう各事業所で対応している		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	趣味やさまざまな活動に応じていけるよう、地域の行事などに参加させていただいている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。			
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。			
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	いままでのかかりつけ医を希望される方は、そのままし、個々にとって適切な医療を受けられるよう支援している		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要あれば主治医のほかに認知症の専門医と相談したりしている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	施設内の看護師は日々観察を行っており、かかりつけ医療機関の看護師とも日々連携をとって支援している		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された場合はたびたび面会に行き、状態の把握、情報収集を行ったり、ご家族とも連絡を取り合い早期退院につながるよう努めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>できるだけ早い段階から主治医、ご家族と連携を密にし、全員で取組んでいくようにしている</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>本人が施設でよりよく暮らせるために、カンファレンスにてできることはどのようにしていくのか、できないことは対応できるサービスにつなげていくなど話し合いを行なって対応している</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>住み替えにて混乱等防ぐ為にも十分引継ぎを行ったり情報交換を行ったりしている</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>日々十分注意している 対応等で疑問を感じたら個別で、あるいは全体に伝え解決していった</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員主体にならないよう十分に気を配っている 伝わりにくい方には選択できる声掛けに代えたりと、できるだけ本人に選択、納得していただき日々暮らせるよう支援している</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務、都合を優先せず、一人一人のペースを大切に希望にそった生活を送っていただけるよう支援している		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	髪型、服装など本人に選んでいただけるよう努めている 理・美容も意向に合わせて対応している 現状本人の望む店にはいけていない		個々の望む店に行けるよう努めたい
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	好みを知り一緒に準備をすることもありますが常時ではない		特別なことがない限りすべて一緒に行なっていく
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一緒に買い物に出かけた際など本人様より希望があれば購入していただいたり、行事などではお酒も楽しんでいただいている		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々に合わせ対応している オムツ使用はできるだけ避け、排泄パターンを把握し気持ちよく排泄していただけるよう努めている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望のある方は極力希望通りに対応、訴えがない方も曜日や時間では決めていない 体調や思いを大切にしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入眠時間は決めておらず、個々の生活習慣に合わせて対応している（午前中眠気の強い方は休息をとったりなど）		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役割、楽しみごとなど本人や家族から聞き出し日々の生活の中で、ちょっとした時間でもいかにせるよう提供している		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望あればお金を持っていただいたり使えるよう支援していたが、現段階では該当する方はおられない		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気のよい日や、希望のある日には希望のあるところにでかけられるよう対応している		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	日々のかかわりの中でお聞きし、普段の勤務上出掛けるのが困難な場合は、事前に計画を立てそういう機会をもうけている 家族会にてご家族と外出することもある		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状は手を添え一緒に書いた 重度な方が多いため訴えがほとんどない 職員が行なうことが多い		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>面会時など居心地よく過ごしていただけるよう環境に配慮したり、コミュニケーションが難しい方の場合、職員が必ず間に入るなどして、常に来客者の立場で考えている</p>		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束についての勉強会を定期的に行い、理解、認識し、ケアにつなげている</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>全職員理解しており、夜勤者一人の際以外は鍵をかけていない</p>		
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員のチームワークにより、個々の入居者の様子、状態を常に把握している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>すべて取り除くのではなく、個々にあわせて工夫をしている</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>定期的に勉強会にて知識を入れ、日々のケアに役立てている</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	一年に一度は訓練を行なっている その他に 個々で講習会に参加するよう促したり、本を読んだりとそれぞれ知識を入れていただいている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練で訓練を行なったり、地域の方々へのご協力もいただけるようお願いしている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	面会時などにお伝えし、理解を頂いている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	常に早期発見に努めており、気付いた際は口頭、記録などで各職員に情報を流し、速やかな対応を行なっている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬についての勉強会を行なったり、ある程度の理解はできているが、副作用までは全職員が把握できているとは言いがたい		各自さらなる勉強が必要
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる。	すぐ薬に頼る事は避け、便秘予防、マッサージなどに力を入れている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々に合わせた方法で毎日行なっているが、夜のみである		毎食後取組んでいきたい
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎回記録に残し、平均量の把握もできている 個々に応じた対応を行なっている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、それに応じて日々行なっている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	夜間帯に消毒・殺菌を必ず行い、衛生管理に努めている		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関まわりに花を植えたり、天気のいい日はドアを開け、開放的な環境を作っている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節のものを飾ったり、季節の音楽をかけたりと四季を感じていただいている カーテンの調整、音の調整も行なっている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	いろいろな場所に椅子をおき、一人になりたいとき、二人で会話をしたい時など思い思いに過ごせる工夫をしている		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	在宅時とあまり環境が変わらないよう極力なじみのものを持って来ていただいている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	こまめな換気、温度調整を行い、におい、菌が蔓延しないように努めている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々に応じて居室にポータブルトイレを置いたり、手すりをつけたりと自立支援に努めている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	できることはしていただき、できないところだけサポートしている 常に感謝の言葉を伝え自信を取り戻していただくようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベンチ、椅子を置いたり、外やベランダに出やすい環境を作っている		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームいぶき 2階

評価年月日 2008年 1月 29日

記入年月日 2008年 1月 10日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 藤田 真理子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

目 次

<ul style="list-style-type: none"> 理念に基づく運営 1 1 理念の共有 1 2 地域との支えあい 1 3 理念を実践するための制度の理解と活用 2 4 理念を実践するための体制 2 5 人材の育成と支援 4 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 4 1 権限から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 5 その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 6 1 一人ひとりの把握 6 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し 7 3 多機能性を活かした柔軟な支援 7 4 本人がより暮らし続けるための地域資源との協働 7 	<ul style="list-style-type: none"> 1 1 1 2 2 4 4 4 5 6 6 7 7 7 	<ul style="list-style-type: none"> その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 9 1 その人らしい暮らしの支援 9 (1) 一人ひとりの尊重 9 (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 10 (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 11 (4) 安心と安全を支える支援 12 (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 13 2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり 14 (1) 居心地のよい環境づくり 14 (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 15 サービスの成果に関する項目 16
---	--	---

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地元の利用者が少ない中でも 地域の中でより良く暮らせるよう、独自の理念を作成している		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日理念を意識し、日々のケアを行っている 三ヶ月に一度、管理者が職員と面談を行い、理念に基づき日々どう取り組んでいっているかなど話し合っている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議で町内会長、民生委員、ご家族などにお伝えする機会をもうけている		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の方が通られるたびに職員から挨拶をしており、顔見知りの方も多くなってきている しかし気軽に立ち寄っていただけるまでにはなっていない		利用者と近所の方との交流が少ないので散歩など増やしていきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のイベントは年々参加を増やしている		イベントの内容によって参加不参加を決めているが、もっと多くの行事に参加していきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の一員としてゴミ拾いは行っているが、高齢者の暮らしに直接役に立ってまではいない		カンファレンスにて話し合いを行い、取り組んでいきたい
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に自己評価及び外部評価の意義等伝え、理解してもらっている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議であがった意見や話し合いの内容等は職員に伝え、話し合いを行い、次に活かしている		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の開催する介護保険事業所説明会など積極的に参加し、サービス向上に活かしている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	事業所の勉強会等で学ぶ機会をもうけている 未だ必要性はないが今後活用していきたい		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会などで学ぶ機会をもうけ、各職員に意識づけている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	細かく説明を行い、疑問があればその都度お聞きし、理解・納得していただけるよう努めている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情受付を利用したり、面会時、運営推進会議などでご意見を頂き、次に活かしている		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時や電話連絡にて常時報告している ただ職員の異動まではお伝えしていない		ご家族より異動を極力少なくして欲しいと意見を頂戴した やむなく異動があった場合でもお伝えしていきたい
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議にて意見を頂き、運営に反映させている		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個人面談、カンファレンスで意見を聞く機会をもうけており、それを反映させている		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者等の状況の変化、要望に対応できるよう職員には理解の上で協力を求めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>やむなく異動があった場合は引継ぎを細かく行うなどし、利用者・ご家族へのダメージを極力少なくできるよう配慮している</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>事業所全体で新人職員に対する研修を実施したり、カンファレンスで現任研修を行うなど、働きながら育成していけるよう努めている</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域の研修等に参加しながら横のつながりを大切にしている</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>個人面談時に最近の状況を聞いたり、日々のちょっとした会話を増やし、ストレスがあれば早めに気づき、少しでも軽減できるよう努めている</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>職員とのコミュニケーションを日々大事にし、個々にあう方法で向上心をもって働けるよう努めている</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>利用者に心から安心していただけるよう、本人の思いをくみとるよう努めている</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用者とともにご家族にも心から安心していただけるよう、気軽に何でも言える雰囲気作りを心掛けている		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアマネージャーと連携を図りそのとき必要なサービスを見極めていけるよう努めている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	慎重におこなっている ご家族様には状態をよくみていただき無理なサービスになっていないか相談しながら進めている		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側、される側に分かれず、一緒に生活する仲間として捉え、楽しみ、悲しみなど共に感じあい支えあう関係を築いている		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の悩み、思いをしっかりと聞き、受け入れ、一緒に本人と支えあえる関係作りに努めている		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	アセスメントをすることにより把握させていただき、利用後の変化等も話しながら支援している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの場所、もの、友人関係等を大切にし、関係が途切れないよう支援している</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>利用者同士がうまく関わりあえないときは、職員が間に入り、孤立せずお互いが支えあえる関係作りに努めている</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>退居後、入院されている場合は面会に行ったり、電話連絡をするなど関係が途切れないようにしている</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>個々の思いや暮らし方の希望など、ご家族や本人から聞き取り把握している</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>アセスメントの段階で確認を行い、その後もご家族、本人よりお聞きし把握に努めている</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>個々の状態を総合的に見て現状を把握している</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、ご家族からお聞きし介護計画を立てている		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に見直しは行っている 期間内に見直しが必要になった場合はその都度行なっている		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	細かく記録に残している 全職員が内容を把握しており、実際のケアや介護計画の見直しにも活かしている		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者様、ご家族のニーズに応じていけるよう各事業所で対応している		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	趣味やさまざまな活動に応じていけるよう、地域の行事などに参加させていただいている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。			
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。			
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	いままでのかかりつけ医を希望される方は、そのままし、個々にとって適切な医療を受けられるよう支援している		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要あれば主治医のほかに認知症の専門医と相談したりしている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	施設内の看護師は日々観察を行っており、かかりつけ医療機関の看護師とも日々連携をとって支援している		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された場合はたびたび面会に行き、状態の把握、情報収集を行ったり、ご家族とも連絡を取り合い早期退院につながるよう努めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>できるだけ早い段階から主治医、ご家族と連携を密にし、全員で取組んでいくようにしている</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>本人が施設でよりよく暮らせるために、カンファレンスにてできることはどのようにしていくのか、できないことは対応できるサービスにつなげていくなど話し合いを行なって対応している</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>住み替えにて混乱等防ぐ為にも十分引継ぎを行ったり情報交換を行ったりしている</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>日々十分注意している 対応等で疑問を感じたら個別で、あるいは全体に伝え解決していった</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員主体にならないよう十分に気を配っている 伝わりにくい方には選択できる声掛けに代えたりと、できるだけ本人に選択、納得していただき日々暮らせるよう支援している</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務、都合を優先せず、一人一人のペースを大切に希望にそった生活を送っていただけるよう支援している		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	髪型、服装など本人に選んでいただけるよう努めている 理・美容も意向に合わせて対応している		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューも一緒に選んだり、買い物の段階から好みに合わせて対応したりと全て一緒に考え行なっている		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一緒に買い物に出かけた際など本人様より希望があれば購入していただいたり、行事などではお酒も楽しんでいただいている		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々に合わせ対応している オムツ使用はできるだけ避け、排泄パターンを把握し気持ちよく排泄していただけるよう努めている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望のある方は極力希望通りに対応、訴えがない方も曜日や時間では決めていない体調や思いを大切にしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入眠時間は決めておらず、個々の生活習慣に合わせて対応している（午前中眠気の強い方は休息をとったりなど）		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役割、楽しみごとなど本人や家族から聞き出し日々の生活の中で、ちょっとした時間でもいかにせるよう提供している		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望があればお金を持っていただいたり使えるよう支援していたが、現段階では該当するかたはおられない		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気のよい日や、希望のある日には希望のあるところにでかけられるよう対応している		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	日々のかかわりの中でお聞きし、普段の勤務上出掛けるのが困難な場合は、事前に計画を立てそういう機会をもうけている		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や暑中見舞いなどは書いていただいたり、電話をしたいときにはできるように支援している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>面会時など居心地よく過ごしていただけるよう環境に配慮したり、コミュニケーションが難しい方の場合、職員が必ず間に入るなどして、常に来客者の立場で考えている</p>		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束についての勉強会を定期的に行い、理解、認識し、ケアにつなげている</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>全職員理解しており、夜勤者一人の際以外は鍵をかけていない</p>		
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員のチームワークにより、個々の入居者の様子、状態を常に把握している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>すべて取り除くのではなく、個々にあわせて工夫をしている</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>定期的に勉強会にて知識を入れ、日々のケアに役立てている</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	一年に一度は訓練を行なっている その他に 個々で講習会に参加するよう促したり、本を読んだりとそれぞれ知識を入れていただいている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練で訓練を行ったり、地域の方々へのご協力もいただけるようお願いしている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	面会時などにお伝えし、理解を頂いている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	常に早期発見に努めており、気付いた際は口頭、記録などで各職員に情報を流し、速やかな対応を行なっている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬についての勉強会を行ったり、ある程度の理解はできているが、副作用までは全職員が把握できているとは言いがたい		各自さらなる勉強が必要
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる。	すぐ薬に頼る事は避け、便秘予防、マッサージなどに力を入れている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々に合わせた方法で毎日行なっているが、昼、夜のみである		朝食後も取組んでいきたい
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎回記録に残し、平均量の把握もできている 個々に応じた対応を行なっている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、それに応じて日々行なっている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	夜間帯に消毒・殺菌を必ず行い、衛生管理に努めている		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関まわりに花を植えたり、天気のいい日はドアを開け、開放的な環境を作っている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節のものを飾ったり、季節の音楽をかけたりと四季を感じていただいている カーテンの調整、音の調整も行なっている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	いろいろな場所に椅子をおき、一人になりたいとき、二人で会話をしたい時など思い思いに過ごせる工夫をしている		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	在宅時とあまり環境が変わらないよう極力なじみのものを持って来ていただいている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	こまめな換気、温度調整を行い、におい、菌が蔓延しないように努めている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々に応じて居室にポータブルトイレを置いたり、手すりをつけたりと自立支援に努めている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	できることはしていただき、できないところだけサポートしている 常に感謝の言葉を伝え自信を取り戻していただくようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベンチ、椅子を置いたり、外やベランダに出やすい環境を作っている		